

## 第1章 計画の策定にあたって

### 1 計画策定の背景と目的

子供、障がい者、高齢者への支援に加え、生活困窮やひきこもりなど、地域課題は複合化する一方、人口減少や少子高齢化の進行、住民同士の希薄化などにより、これまで地域にあった住民同士の支え合いが機能しなくなることが懸念されています。

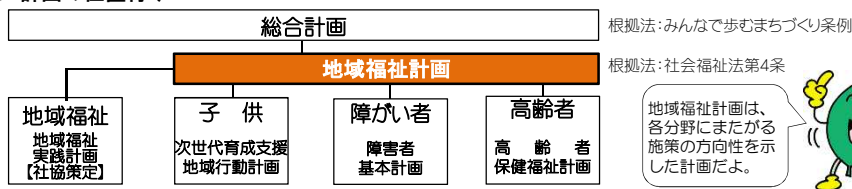
本町においても、平成17年に第1期地域福祉計画を策定し福祉施策を進めてきました。その間、人口は減少し、地域コミュニティ自体が機能しづらくなる状況も見え始めていることから、限られた資源と人材を更に活用し、公的支援とともに町民が支え合う黒松内町版「地域共生社会」の実現が求められます。

当計画は、官民の役割分担の下に展開する施策の方向性を示すことで、関係者はもとより、町民が歩むべき道筋を明らかにさせるために策定するものです。

### 2 計画の期間

令和2年度から令和6年度まで【5年間】

### 3 計画の位置付け



## 第2章 時代の潮流

### 1 人口減少から2040問題へ

人口減少時代に入り、2040年には高齢化率35%を越えると推計されています。人口構造の変化により税収は減少し社会保障費は増加するなど危機的な状況に陥ることが危惧されます。

### 2 高度情報化の進展

近い将来、医療・介護の分野でも労働力不足を補うため、AI(人工知能)などを活用した省力化と生産性の向上が期待されています。

### 3 多文化共生

在留外国人は増加しており、また、労働力不足を補う策として、新たな在留資格制度が創設されました。外国人と日本人が共存するため、文化や生活習慣などの理解が必要となります。

### 4 格差・貧困の世代間連鎖

格差・貧困の世代間格差は将来に影響を及ぼす大きな問題ですが、貧困の解消は、複合的な課題によるため、その対策はまだ発展途上の状態にあります。

### 5 地域共生社会

従来からある地域の支え手と支えられ手を超え、これまでの課題解決型の支援に加え、自らの意思、生きがい、働きたい気持ちを尊重する「地域共生社会」の実現が求められています。

## 第3章 黒松内町の状況

### 1 顔が見える人口規模

人口は更に減少が縮くと見込まれますが、困難を抱える者が都会と比べて比較的見つけやすく、地域や関係者が緩やかに守ることができる面は、小さな田舎の強みです。

### 2 危ぶまれる地域コミュニティの維持

既に豊幌と大成は約50人まで減少、白井川、豊幌、大成は高齢化率が5割を超え、地域にある助け合いの維持も難しくなっています。

### 3 社会資源は市街地に集中

医療・福祉サービス事業所、金融機関、商店などの社会資源は黒松内市街地に集中し、コンパウトまっています。

### 5 ひっ迫する財政

収入の約半分の地方交付税は人口減少とともに減額され、今後、総合体育館、町立診療所の建設に要した借入金償還が始まり、また、老朽化した公共施設の補修や更新なども予定しているため、更に厳しい財政運営に迫られます。

### 4 恒常的な人材不足

就業者の約7割が第三次産業に従事し、「医療・福祉」は3割を超えています。就業割合は高く、既に多くの町民が働いていますが、福祉施設では人材不足のため、利用定員までの受け入れが困難となっています。



## 第4章 計画の基本的な考え方

### 目指す姿

**みんなで支え 共につくる田舎 黒松内**  
「納得できる人生」と「ささやかな豊かさを感じられる地域社会」を目指して

誰もがかわりのを持って、互いに手を取り合い助け合える田舎を目指すよ！

### 基本的な考え方

1 納得できる人生

2 ささやかな豊かさを感じられる地域社会



## 第5章 施策の展開

### I 納得できる人生

テーマは「人」。地域社会において、自分らしく暮らし続けるために欠かせない健康と生き方について、子供から高齢者までのライフステージごとに展開する3施策の方向性を示します。

#### I-1 ブナっ子の輝く笑顔のために【子供】

- 1 健やかな成長・健康的な生活習慣の習得
- 2 生きる力・自立できる能力を身につける
- 3 障害の早期発見・支援
- 4 特別支援教育・療育の充実
- 5 子供の貧困解消、児童虐待防止

#### I-2 黒松内を担う世代が活躍するために【成年】

- 1 健康を意識した習慣・身体状況の把握
- 2 若者定着への生活基盤づくり
- 3 家庭づくりと社会生活の両立
- 4 親の介護と社会の担い手との両立
- 5 障がい者の就労・社会参加・自立した生活・日々の暮らし支援
- 6 貧困対策、孤立防止、自殺防止

#### I-3 黒松内で豊かに暮らし続けるために【高齢】

- 1 生涯現役を意識した生活
- 2 サービスに頼りきらない自立した生活
- 3 介護の重度化を予防する生活
- 4 人生の終焉における生活
- 5 地域の担い手として活躍
- 6 貧困対策、権利擁護(虐待防止、成年後見制度)

### II ささやかな豊かさを感じられる地域社会

テーマは「地域」。地域で暮らす住民が、互いに手を取り合い助け合える黒松内版「地域共生社会」に向けて、支え合い活動、関係機関との連携、人材確保、災害対応など地域全体で展開する4施策の方向性を示します。

#### II-1 めくもりのある地域づくり【地域】

- 1 地域のつながり強化
- 2 身近な助け合いの維持
- 3 外国人定住者への配慮

#### II-2 暮らしをつなぐ支援の運動【機関】

- 1 関係機関等との連携強化
- 2 ライフステージに応じた情報の提供
- 3 必要となるサービスの創出

#### II-3 必要とされる人材の確保【人材】

- 1 専門人材確保対策の強化
- 2 外国人材の受け入れ
- 3 テクノロジーの活用
- 4 地域の人材の活躍と育成

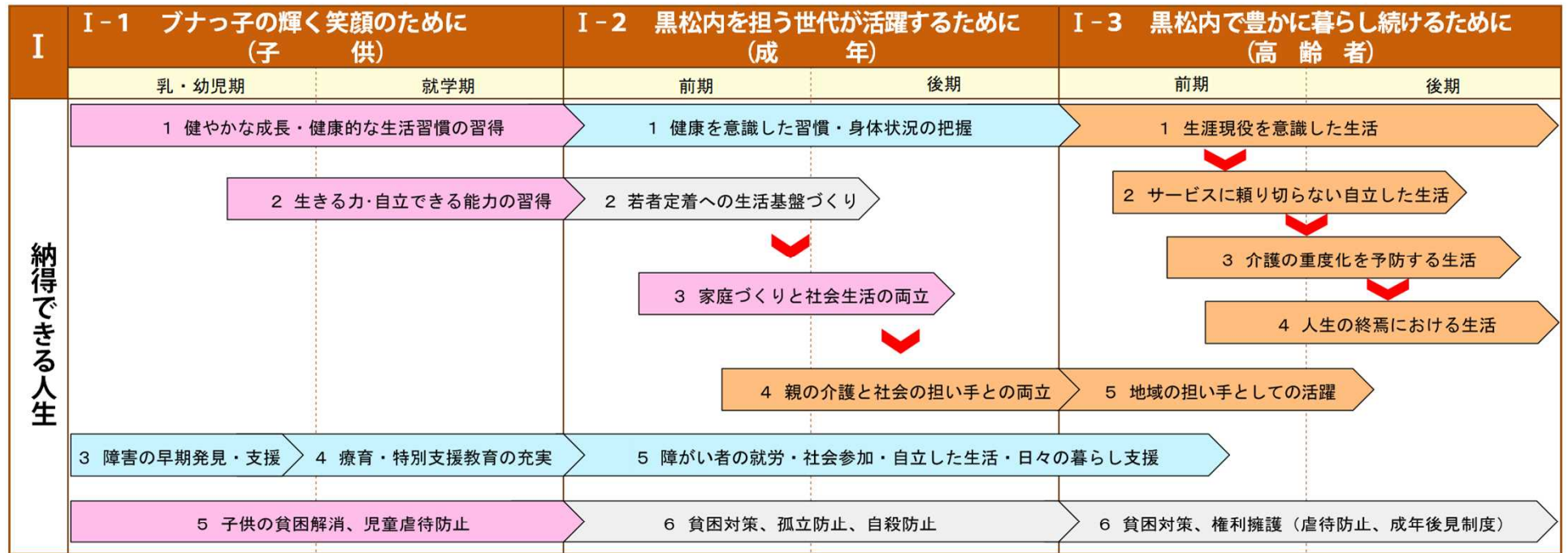
#### II-4 安全・安心な地域づくりと市街地への緩やかな誘導【安全安心】

- 1 災害時に地域が判断・対応できる環境づくり
- 2 配慮が必要な人に対応した準備
- 3 社会資源が集まる市街地への緩やかな誘導

黒松内町での暮らしで「納得した人生」と「ささやかな豊かさ」を実感できると良いね！



# 施策概念図



※関連する個別施策の色分け

